創業70周年 新工場建設㈱伊藤製作所

高付加価値の部品製造

自動車用機能部品、半導体製造装置部品などを製造している㈱伊藤製作所（伊藤明彦代表取締役社長）が、創業70周年の昨年、山形市のニュータウンみはらしの丘の産業エリアに新本社と工場を建設、広いスペースを活かした生産ラインでオンリーワンの部品づくりを目指している。山形商工会議所工業部会副部会長でもある伊藤社長に今後の方針と、山形のものづくりの歴史などついてうかがった。

（写真左）山形市のニュータウンみはらしの丘の産業エリアに建設された新工場。
（同右）新工場を視察研修する山形県工業会村山支部のメンバー（1月18日）

―戦後の山形機械工業界について、さまざまな機会に講演しています。

伊藤社長　「創成期」「高度成長期」「混迷期」と大きく3つに分けて話しています。「創成期」は当社を含めて、今日操業している多くの企業が、㈱原田製作所（現・㈱ハッピージャパン）のミシン部品の下請け工場として創業し山形の部品作りの下地ができます。

「高度成長期」に入りますと、それぞれの工場が得意な技術に磨きをかけて自動車車両部品加工へ参入や、金型・プラスチック成型、冷間鍛造等に進出する一方、QC導入による効率化追求、生産設備更新など近代化が進みます。当社の場合はオートバイ用エンジン部品生産へと移行し、現在の自動車用各種部品、半導体製造装置用部品を中心とする精密部品製造への基盤が作られます。

そして「混迷期」。グローバル化が進展する中、ITバブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災と、県内の製造業は大きな波に見舞われます。当社の新社屋建設はそのたびごとに頓挫しました。最初に建設を計画したのは、半導体関連の受注が急増した2000（平成12）年で、対応するために、山形市南栄町の工場を増設し設備を整える必要がありました。ところが、土地の取得に手間取っている間にITバブルが崩壊し、半導体関連の受注が激減し増設計画は中断を余儀なくされました。

この大波を乗り切り、新たに土地の選定に取り掛かろうとしたところへ、2008年9月のリーマンショック。東京都大田区の町工場・ダイヤ精機㈱代表取締役の諏訪貴子氏が、山形商工会議所主催の講演会で、「大幅な受注減で売上が9割も減少した。加えて超円高。会社は存亡の危機に立たされ廃業も覚悟した」と語っていましたが、まさに、その通りで、国の雇用調整助成金を得てしのぐのが精一杯で、新社屋どころの話ではありませんでした。

何とか乗り切り、今度こそと計画を再スタートしたところに2011年3月の東日本大震災。それまでの計画を白紙に戻し、新たに精密部品の製造に適した場所の選定等腰を据えて取り掛かり、現在地への移転が実現しました。

―伊藤式生産システム改善活動＝IPS（ito production system）＝の実践を経営理念に掲げています。

伊藤社長　意図するところは、トヨタ生産方式をベースに、当社の生産体系に合った生産力向上改善運動の実践です。5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾＝ルール等を守る）活動は製造業の基本で、品質、コスト、納期、安全を高めるため重要です。段取り時間の改善、実働時間の短縮、検査や出荷時間の改善など見直すところはたくさんあります。弊社には5S委員会があり、それぞれにトップダウンでプロジェクトに取り組んでもらっています。しかし、管理者からの指示だけではうまくいきません。ボトムアップのサークル活動があり相互に連携しています。毎月第一土曜の午前中は、生産をせずにこうした活動に時間を充てています。

一方、外部の専門家からのアドバイスも重要です。新工場の広さを活かしたラインレイアウトの見直しやスペースの活用については、山形県企業振興公社の専門家派遣事業を活用し日本生産性本部のコンサルティングを継続的に受けています。また、県内外の企業・工場等の視察研修会、セミナーに参加し生産性向上への取り組み、将来に向けての考え方等を学んでいます。

―世界の自動車メーカーは現在、自動運転、電気自動車の開発にしのぎを削っています。

伊藤社長　経済産業省は当初は2030年代を目標としていたレベル4（完全自動運転）の実現を、地域限定ですが前倒ししました。一方、電気自動車は航続距離を伸ばす蓄電池の開発が課題であり、トヨタがパナソニックと提携しリチウムイオン電池の改良や次世代電池の「全固体電池」の共同開発を目指すと発表するなど動きは加速しています。

本県の基盤産業は自動車関連産業であり、受ける影響は少なくありません。しかし、一方で自動運転の進展によって半導体需要が高まっています。時代の趨勢に合わせ技術力を磨き、信頼される製品をつくり続けるしかありません。平成28年の経済センサスによりますと、本県の製造品出荷額は2兆5510億円、生産加工過程で新たに加えられた付加価値は8430億円です。農業産出額の10倍強です。多くの困難を乗り越えてきた本県のものづくりは大きな可能性があります。「自社製品に磨きを掛けて、外側からは見えない精緻な部品を提供し世の中の役に立つこと。売上を伸ばすこととともに、社員が活き活きと働ける職場づくりと、そのことによって地域になくてはならない企業になっていきたい」と思っています。

精緻な部品を提供し世の中の役に、と語る伊藤社長

㈱伊藤製作所
創業　1947（昭和22）年
会社設立　1963（昭和38）年
資本金　5000万円
代表取締役社長　伊藤明彦
本社　山形市みはらしの丘5-1-3
☎023・687・1451